

長野市復興だより ワン・ハート

ONE  HEART

災害に対応した情報の共有と支援強化

古里住民自治協議会

「今まで地震や土砂災害を想定した訓練は行ってきましたが、水害は想定外でした」令和元年東日本台風での被災について、古里住民自治協議会会長の金子祐三さんは振り返りました。下駒沢地区を中心に床上94世帯、床下87世帯の浸水被害があった古里地区。被災が全地区ではなかったことから、地区内での温度差があり、復興への想いを共有することが難しかったとも言います。

古里住民自治協議会では、事務局や各区等に簡易デジタル無線機（約120台）を配備しています。10年ほど前から地区内のアマチュア無線愛好者クラブ「ネット古里」と災害時の情報伝達に関わる協力体制を構築し、年1回の総合防災訓練では、簡易デジタル無線のネットワークとアマチュア無線を使った情報伝達訓練を重ね迅速な情報の共有化を図ってきました。

今回の水害は想定外だったとはいえ、千曲川堤防決壊があった10月13日には、古里総合市民センター内の住自協事務局にアマチュア無

線クラブのキー局を開設し、各区の簡易デジタル無線との情報の共有により、浸水した地区の水位の変化や救助が必要な家の情報などきめ細かい情報を伝達し、その機能を実際に発揮することができました。被災1周年の節目として「古里復興応援イベント」を開催し、各区に防災備品の整備や、災害・復興を記録したパネル展示などを行い、防災意識の啓発にも取り組んでいます。また、市仮設住宅入居者との交流も図ってきました。今年2月には地区の防災対策の集大成である「古里版いきいきふるさと安心・安全防災マップ」の改訂版を発行予定。金子会長は、「地区住民の皆さんは、このマップを日頃から目に届く場所に置いて、いざ災害の時に役立ててほしい」と語りました。

[INFORMATION]

古里住民自治協議会

長野市金箱635-16

TEL:026-295-9755

①住宅と建築物に関する総合相談会を開催します

建築士や弁護士等の専門家が、住宅と建築物に関する具体的課題や問題に対して相談に応じると共に、公営住宅等に関する相談にも応じます。相談は無料、予約制(先着順)です。

日時・場所	2月13日(土)10:00～15:00 柳原交流センター(大学習室)
お申し込み方法	申込書に必要事項をご記入いただき、2月10日(水)までにお申し込みください。 ・郵送、ファクス、Eメールの場合：長野県建築相談連絡会へ ・窓口持参の場合：建築指導課(第2庁舎7階)へ ※コロナウイルス感染症拡大防止のため、郵送等による申込にご協力ください。
お申し込み・お問い合わせ先	長野県建築相談連絡会(事務局：(公社)長野県建築士会) TEL：026-235-0561 〒380-0872長野市大字南長野字宮東426-1 FAX：026-232-2588 e-mail：n-shikai@avis.ne.jp ※なお、申込書は建築指導課(第2庁舎7階)、豊野・柳原・長沼・篠ノ井・松代の各支所でお配りするほか、以下のホームページにご用意しています。 長野県建築相談連絡会： http://www.nagano-kenchikushikai.org/soudan/ 長野市： https://www.city.nagano.nagano.jp

②被災代替家屋に係る固定資産税・都市計画税の減額特例制度の申告について

令和元年東日本台風の災害によって滅失又は損壊した家屋(被災家屋)の所有者が、令和6年3月31日までに被災家屋に代わる家屋(代替家屋)を新たに取得又は新築等した場合は、申告により税額が減額される制度があります。

申告期限は代替家屋を取得した日の翌年1月31日までです。ただし、令和2年12月までに取得した代替家屋については、令和3年3月31日までに申告してください。

この制度の詳しい要件などは長野市ホームページまたは資産税課までお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先	資産税課 家屋評価担当(TEL：026-224-7176) e-mail：sisanzei@city.nagano.lg.jp
---------------	---

③公費解体の申請受付期限の延長について

令和元年東日本台風の災害で被災し、全壊、大規模半壊または半壊と判定された家屋等の公費解体の申請受付期限を令和3年1月29日(金)から5月28日(金)に延長します。なお、2月1日からの申請受付会場は、長野市役所第二庁舎の公費解体対策室のみとなりますのでご了承ください。公費解体の相談、申請受付の予約は、公費解体対策室(TEL：026-224-9727)へお願いします。



生活支援相談員が皆さまのご自宅を訪問します

長野市生活支援・地域ささえあいセンターでは、23名の生活支援相談員が皆さまがお住まいの仮設住宅や公営住宅等を巡回訪問し、被災された皆さまの孤立防止に向けた見守りや、日常生活や今後の生活に向けたご相談に応じます。お問い合わせ、ご相談等がございましたらお気軽に下記までご連絡ください。随時訪問等も行います。



お申し込み・お問い合わせ先	社会福祉法人長野市社会福祉協議会 長野市生活支援・地域ささえあいセンター 〒380-0813 長野市大字鶴賀緑町1714-5 長野市ふれあい福祉センター2階 TEL: 026-219-5251 受付時間：月～金(祝日・年末年始を除く)8:30～17:00
---------------	--

私達がお伺いします お気軽にご相談ください



米山 秀一

[北部地域担当]

東北や熊本、栄村、白馬村などの災害にボランティアとして参加してきました。一昨年の台風災害はあまりにも身近でびっくりしました。被災者の良き相談相手になれるよう努めて参りたいと思います。



谷川 一郎

[北部地域担当]

自分の生活圏での惨事。こんなの誰か想像した?どんな事でもいい、何かお手伝いをしたいと思い飛び込みました。2年目も同じ気持ちでお手伝いをさせて下さい。お願いします。



横田 暁子

[北部地域担当]

一日も早く皆さまの笑顔がもどり、お家に帰ることができるよう応援させていただきます。共に前へ進みましょう。



石坂 和子

[北部地域担当]

相談員として1年が経ちました。被災された皆さまにお会いでき、お話を伺うことができました。ご協力ありがとうございました。又、今年もお伺いしたいと思いますので宜しくお願いします。



水野 謙一

[北部地域担当]

いつも皆さまの様子を伺い、心より感動しております。少しでもお役にたてるよう頑張りたいと思います。本年もよろしくお願ひ致します。



轟 保則

[北部地域担当]

頼りになる相談員となる様に一層がんばります。



北原 朋子

[北部地域担当]

一日も早く笑顔の生活が送れるよう、皆さまのお心に寄り添いたいと思います。



小林 俊之

[北部地域担当]

被災から1年が過ぎました。1年過ぎたから出てくる新しい課題もありますね。訪問の時に心配なこと、いつでも話してくださいね。



若井 京子

[北部地域担当]

日々の日常の生活の中に笑顔が増えるようお手伝いでできればと考えています。



會津 忠雄

[北部地域担当]

被災された皆様の健康と、家の再建がスムーズに行われるよう祈っております。
健康一番★



徳永 千鶴子

[南部地域担当]

皆さまが笑顔で前進出来ますようにお力添え出来たら幸いです!



松枝 芳子

[北部地域担当]

追悼式の日 旅立つ風船
青き空 見上げる笑顔に 希望の光染る
これからも、いっしょに笑顔のミルフィエ
ユを作りましょう。



元に戻すではなく、新しい考え方で課題解決を 長野市立豊野中学校 校長 林 理恵 先生

令和元年東日本台風で校舎・体育館の1階部分が浸水した長野市立豊野中学校。約1年に及ぶ仮設校舎での生活を経て、令和2年11月末に校舎の復旧工事が完了、12月から本校舎での授業を再開しました。災害後の学校運営について、林校長先生に伺いました。

何はさておき、安否確認

10月13日の被災直後、校舎の被害状況も気になりましたが、まずやったことは、生徒の安否確認と所在確認でした。豊野東小をお借りして本部を置き、各学級担任を通して生徒に電話連絡をしました。停電のため、電話が繋がらない家庭もあり、全校生徒251名の安否確認が終わったのは、翌14日の午前10時でした。安堵したのも束の間、15日からは、クラス担任が家庭訪問を行い、生徒の避難場所や健康状態を確認。その他の職員は泥出しなど復旧作業を進めました。幸い、水道はすぐに復旧し、トイレも使えましたが、校内に電気を送る変電施設が浸水し、電気の復旧までにはその後1ヶ月近くかかりました。「お手伝いします!」と申し出てくれた生徒もいましたが、安全を確保することが難しかったため、やむを得ずお断りしました。生徒たちの気持ちがとてもありがたく印象的でした。災害直後は、学校の周辺道路も通行止めなどで容易に近づけず、駐車場もないため、ボランティアの受け入れも大変でしたが、卒業生、地域の皆さん、長野県下各地の小中学校の先生方など毎日30名ほどのボランティアにきていただき、清掃や洗浄、水没した重要書類の乾燥などを行いました。「早く全校生徒の皆さんと会いたい、学校生活を取り戻したい」という一心で作業に当たり、夕方には市教委に出向いて、翌日以降の対策を練るという日々の中、昇降口に掲げられた生徒会のスローガン「RESTART」が励みになりました。

授業再開まで

10月28日、臨時の全校集会を開き、約2週間ぶりに生徒たちと再会しました。しかし、全校生徒を収容できる仮校舎はなく、苦渋の決断で、3年生のみ市立長野中学校の教室をお借りして翌29日から授業を再開することに。1,2年生はやむを得ず、被災した校舎の2,3階で短時間の自主学習。運動不足でストレスがたまっている生徒たちのために、レクや運動の場を各学年で臨機応変に設けられるようにしました。不安な思いを抱きつつも落ち着いて生活をしようとする生徒たちの健気さに何とか応えたいという思いが募る日々でした。変電機修理の間、レンタルの発電機を県外から取り寄せ、10月末に教室内の電気が復旧。校庭への仮設校舎の建設も急ピッチで進めただき、11月11日、ついに3年生を含め、全校生徒が豊野中での授業を再開することができました。



水没を免れた令和元年度生徒会のスローガンは「RESTART」



手前が仮設校舎。被災した本校舎には復興を願う横断幕が掲げられた

新しい価値観を共有する

災害から1年を迎えた昨年10月は、「防災旬間」と位置付け、地域を正しく知り行動できる生徒を育成するため、地域の歴史の確認、家族と「マイトimeline」の作成、水害を想定した引き渡し訓練に取り組みました。将来、どこで生活することになって、この地で学んだことを活かしてその土地について自ら学び、地域の方々と共に生活できる大人になってほしいと願います。学校の復旧についても、最初は「元に戻す」ことだけを考えていましたが、今はコロナによって



復旧工事を終えて蘇った昇降口

生まれた新しい価値観を共有し、臨機応変に変えていくこと、どんな状況の中でも「やっていくんだ」という気持ちが大事だと思っています。そうして達成できたことは、生徒たちの自信につながっていくということ、先生方や生徒たちの取り組みから学びました。今年度の生徒会のスローガンは「日新月歩」(日進月歩からの造語)。大変な状況だけれど、新たな気持ちで進み続けよう、という生徒たちの想いが込められています。

